

(1) 1995年(平成7年) 11月10日(金曜日)



吉原町日吉
対馬新聞社
〒817
09205 ② 0 2 3 5
三山 忠

社説

中央政界の動向も多事多端が伺える。与野党対決の宗教法人法改正等また与党自民党も橋本総裁はできたが派閥再生の動きや社会党の新政結成問題、新党さきがけも社会党とは合流せず第三極結成をと、野党の新進党は党首公選に党員外でも金千円を出し投票できるとか、平凡によそごとのような無関心ではあり得ない感じ。衆議院解散時期についても各人各様の見方があり現時点では見透しがつかないのが当然だろう。

最近選挙を見越しての動きが活発になった。自民党虎島和夫議員が国会報告会として後援会組織が進められた。新進党山田正彦議員は前総理羽田孜副党首の時局講演会開催、山田代議士自からも対馬の時局講演会と日韓トンネル

ア国際ハイウェイ構想の話、私が関係して十年になる国際ハイウェイプロジェクト日韓トンネル研究会による唐津―壱岐―対馬―韓国を結ぶ日韓海底トンネルの夢の大構想と目的内容が同じで先年日

では目下このことは国家的な事業として推進方を政治運動が企画されており羽田氏のような実力政治家は得難い味方であり将来大きく期待が持たれると思う。参考までに日韓トンネル予想ルート案はA

たが今では先送りの状況、英仏海峡海底トンネル貫通に刺激され熱心に推進がはかられ、そのうちに正夢としての実現を期待したい。また最近では東松浦半島から壱岐までは架橋案も浮び上り途中で人工島築造案等そして壱岐と対馬には陸上駅ができる、対馬西水道は水深五百メートル以上の箇所もあり難工事が予想され某専門家の説では工期八年間、総工費六兆円説がある。青函トンネルやドーバー海峡トンネルの経験から技術的には可能と言われているので将来に期待しよう。

羽田氏講演の中で国内的にも国際的にも発想転換が説かれ特に関心と興味を持たれたのは九州本土と韓国を海底トンネルで結ぶアジア

韓トンネル研究会が自民党議員勉強会を開催したことがありその関係かまたは超一流の政治家としての見識なのか、できればこのことだけでも懇談したかった。

よってこのことを早速同研究会九州支部事務局長に連絡した同会

ルートを決定が云々され

速同研究会九州支部事務局長に連絡した同会

速同研究会九州支部事務局長に連絡した同会

速同研究会九州支部事務局長に連絡した同会

速同研究会九州支部事務局長に連絡した同会